

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16H01963

研究課題名(和文) 集落再編の国際比較と生活空間論による再考

研究課題名(英文) International Comparative Studies of Rural Settlement System and Reconsideration through Living Space Theory

研究代表者

小島 泰雄 (Kojima, Yasuo)

京都大学・人間・環境学研究科・教授

研究者番号：80234764

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 29,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題は、海外と日本の農村で実施したフィールド調査に基づいて、研究集会とシンポジウムを多く開催し、農村変化について深くかつ開かれた討論を行った。近代の諸位相、たとえば国民国家の形成、農業の生産主義/ポスト生産主義的な展開、農村の衰退過程において、集落の再編が進むことを実証的に解明した。さらに現在の日本農村に観察される新しい傾向や実践が、集落の再編と深く結びつくことを理論的に明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の農村において集落はムラと呼ばれ、明確で強い機能を持ち、人々の暮らしを支える役割を果たしてきた。本研究課題が明らかにした国内と海外の農村における集落変化の文脈は、集落が可変的な存在であることを再認識させるものである。いま日本の農村は人口減少と高齢化によって大きな変化の中にあるが、田園回帰の傾向や地域運営組織の編成を集落の再編を通して新しい農村の暮らしをつくるものとする理解は、地域づくりの実践に理論的な依拠となるものである。

研究成果の概要(英文)：Based on field surveys of rural areas conducted in Japan and abroad, this research project has organized a number of research meetings and symposiums to engage in deep and open discussions on rural change. We have empirically elucidated that in various phases of modernity, for example, in the formation of the nation-state, in the productivist/post-productivist agricultural development, and in the process of rural decline, the reorganization of rural settlement system is underway. We also theoretically clarified that the new trends and practices observed in rural Japan today are deeply connected to the reorganization.

研究分野：人文学 人文地理学

キーワード：農村変化 集落再編 生活空間 国際比較 人文地理学

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究課題の中心的なテーマである集落再編が、日本農村の現状と将来に関する相反する2つの考え方、すなわち「地方消滅論」と「田園回帰論」の双方において論点の核となっていることは、前者において「村たたみ」が、後者においては「村づくり」が鍵概念の一つとなっていることにも現れていた(小田切徳美,2014)。

(2) 集落再編については、農村計画学、農村社会学とともに農村地理学が長く取り組んできた研究、すなわち過疎論から周辺地域論へと続く研究の蓄積があるにもかかわらず(岡橋秀典,1998)それらが社会的に充分に活かされてきたとまでは言いがたいことは、研究者の数や実証研究への傾斜といった斯学の事情だけでなく、長く積み重ねられてきた知見の確認と再評価についてやり残されていることが少なくないためと考えられた。

(3) 科学と技術の急展開は世紀末に大きく時代を回転させたが、農村そのものも、農業と結びついた生産地域から、消費の対象へと社会的構築の次元において転換しつつあり(田林明,2013)農村の意味を再考することが求められていた。

2. 研究の目的

(1) 集落再編に関する知見を体系化して社会に還元しうる形にすることが、本研究課題の主たる目的である。第一義的には、学術レベルで研究集会やシンポジウムを実施し、そこにおける深い討議と、それにもとづく個別の論文と書籍を公開することを通して実現されるものであるが、さらにそれらの知見を社会に伝える工夫が必要となる。その際に、集落の規模や立地、社会経済的特性がその持続可能性にいかなる影響を与えるのかを定式化してゆくことを目指した。

(2) 集落再編をめぐる議論が日本に収斂して行われる傾向にあるが、それを海外における集落を参照枠に据えることで相対化することも、本研究課題の目的である。中国では公有制を基礎とした中心集落の建設、韓国では新自由主義的政策下の農村空間の再編、エチオピアでは villagization 以降の農村変化、ラオスでは農村開発と焼畑抑制のための集落移転事業、イギリスでは逆都市化の下での農村計画の展開などを取り上げることとなった。しかし、これらは他国の経験を紹介するにとどまるものではなく、フィールド調査を通して批判的に海外事例を検討することで、各地域の文脈を踏まえて日本農村を照射することがめざされた。

3. 研究の方法

(1) フィールド調査に基づく集落再編の実態把握が、本研究課題が重視する方法である。国内と海外を問わず、各メンバーが研究を展開してきた調査地を対象とすることで、詳細な地域理解に基づいて集落再編の経過を明らかにしてきた。集落再編を考察するためには、深い地域理解と土地に根ざしたフィールド調査を必要とすることから、その経験の豊かな農村地理学研究者を国内と海外それぞれに複数配置し、国内班と海外班には研究の進展をスーパーバイズする統括研究者を置き、班内の情報共有を進めた。さらに両者を活発な討議において統合する役割を京大拠点が担い、そこに批判的検討を行うための連携研究者が加わった。

(2) 本研究集会の特色をなす方法として、研究集会・巡検・シンポジウムを頻度高く開催して討議を深めたことが挙げられる。研究集会は、日本地理学会において2度のシンポジウムを開催した他、京都大学および学会開催時に行うビジネスミーティングを実施した。さらに、国内の複数の調査地で臨地研究会を開催した(2泊3日)。フィールドに集まって討議することで、現地関係者との交流の場をつくるなど、社会的な結びつきを常に意識することにつながる。また海外調査地のうち中国、韓国で、巡検つき臨地研究会を実施(3泊4日)し、景観観察や現地研究者との交流など、文献や報告だけでは得られない踏み込んだ討議を行った。

(3) 方法論としての生活空間論は、水津一郎(1964)が洗練・体系化したものであり、地域の重層性をダイナミックに捉える地域論を研究レベルで操作化している(浜谷正人,1988)。生活空間論的方法的特徴は、生活者の次元から空間性を考えるベクトルを持つことであり、質的なフィールド調査に親和的である。集落再編を考察するにあたって、施設立地やインフラ整備などといった供給側の論理を相対化することを可能にし、農村の商品化など新しい農村変化に対してもアプローチを明確化することとなった。

4. 研究成果

集落再編の国際比較を通して、国民国家の形成や農業の生産主義/ポスト生産主義の展開といった近代化の諸位相において集落再編が進むことを実態的に解明するとともに、日本農村における田園回帰や地域運営組織といった新しい動向が、集落再編と深く結びついていることを明らかにした。

(1) 田園回帰に関するシンポジウムを日本地理学会秋季大会(2017年)において開催し、その概要を学術誌「E-journalGEO」に発表した。さらにこうした研究成果を月刊誌「地理」の田園回帰の特集号(2018年)として公開した。

(2) 集落再編の国際比較をめぐる国際シンポジウムを京都大学において開催(2019年)し、そこ

における発表と討論に基づく英文論集の編集作業を進めている。

(3)地域運営組織に関するワークショップを鳥取大学において実施し、その議論に基づいて日本地理学会大会のシンポジウムを企画し、コロナ禍に対応したオンライン会議（2020年）として実質的な討論を行った。それに基づく論集の編集作業を進めている。

(4)国内においては、中国山地、中央高地、東京、伊豆半島で臨地研究集会を実施し、海外においては、中国と韓国において臨地研究集会を実施した。それぞれの臨地研究集会では、農村変化の実際を巡検により把握するとともに、科研メンバーに加えて現地研究者・関係者との深い討論を重ねた。

(5)オーストラリアから Guy M Robinson 教授（2016年）、中国から曹栄林教授（2017年）を招聘し、集落再編にかかわる学术交流ならびに講演会を実施した。

(6)こうした種々の取り組みを通して、科研メンバーは個別の論考を論文と著書・口頭発表として、学术界への公開と社会への貢献を積極的に実施した。

<引用文献>

小田切徳美『農山村は消滅しない』2014

岡橋秀典『周辺地域の存立構造』1998

水津一郎『社会地理学の基本問題』（1964）

田林明『商品化される日本の農村空間』2013

浜谷正人『日本村落の社会地理』1988

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計47件（うち査読付論文 21件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 21件）

1. 著者名 中川秀一	4. 巻 12
2. 論文標題 田園回帰とコモン化からみた入会林野の位相	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東日本入会山村研究年報	6. 最初と最後の頁 3-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今里悟之	4. 巻 157
2. 論文標題 地域運営組織に関する覚書 農村地理学に関する覚書	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 史淵	6. 最初と最後の頁 51-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Satoshi IMAZATO	4. 巻 92
2. 論文標題 Territoriality by Folk Boundaries and Social-Geographical Conditions in Shinto-Buddhist, Catholic, and Hidden Christian Rural Communities on Hirado Island, Western Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Geographical review of Japan series B	6. 最初と最後の頁 51~71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4157/geogrevjapanb.92.51	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ren 'ya SATO	4. 巻 93
2. 論文標題 How Is Local Knowledge of Forests Acquired over a Lifetime?: Gender and Age Differences in Ethnobotanical Knowledge of Shifting Cultivators in Southwestern Ethiopia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Geographical review of Japan series A	6. 最初と最後の頁 351~371
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4157/grj.93.351	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小島泰雄	4. 巻 80
2. 論文標題 中国四川の散居と文化 オルターナティブとしての院子的居住	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BIOCITY	6. 最初と最後の頁 100-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小島泰雄	4. 巻 64-4
2. 論文標題 改革開放は中国をいかに変えたのか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 10-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Susumu Nakatsuji	4. 巻 8(2)
2. 論文標題 Land use and land cover changes during the Second Indochina War and their long-term impact on a hilly area in Laos	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Southeast Asian Studies	6. 最初と最後の頁 203-231
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20495/seas.8.2_203	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 作野広和	4. 巻 520
2. 論文標題 人口減少社会への向き合い方	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 生活協同組合研究	6. 最初と最後の頁 5-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川秀一	4. 巻 65(1)
2. 論文標題 「関係人口」と大学におけるフィールドワーク教育	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 経済地理学年報	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川秀一	4. 巻 71(3)
2. 論文標題 学会展望 村落	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人文地理	6. 最初と最後の頁 279-282
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 市川康夫・中川秀一・小川G.F.	4. 巻 14(1)
2. 論文標題 フランス・ジュラ農村にみる移住者の増加と田園生活 フランシュ・コンテ地域圏, カンティニ村の事例	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 E-Journal GEO	6. 最初と最後の頁 258-270
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田国光	4. 巻 71
2. 論文標題 漁場利用をめぐる主体間関係の分析に向けた地理学的方法の検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 季刊地理学	6. 最初と最後の頁 101-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐野遼平・吉田国光	4. 巻 74
2. 論文標題 九谷焼産地における修学・来歴からみた技術継承 - 石川県能美市寺井地区を事例に -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地理科学	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田国光	4. 巻 12
2. 論文標題 (書評) 田和正孝 (2019) : 『石干見の文化誌 - 遺産化される伝統漁法』 昭和堂	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地理空間	6. 最初と最後の頁 55-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小島泰雄	4. 巻 15
2. 論文標題 江門農村における開発と保護	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地域と環境	6. 最初と最後の頁 19-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/243200	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小島泰雄	4. 巻 63-6
2. 論文標題 田園回帰といかに向き合うか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 14-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nguyen Quang, Kim Doo-Chul	4. 巻 83
2. 論文標題 Farmers' landholding strategy in urban fringe areas: A case study of a transitional commune near Ho Chi Minh City, Vietnam	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Land Use Policy	6. 最初と最後の頁 95 ~ 104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.landusepol.2019.01.038	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kim, Doo-Chul	4. 巻 -
2. 論文標題 Transnational Migration and Rural Transition along China's Borderland	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Infinite Rural Systems in a Finite Planet	6. 最初と最後の頁 426-431
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤廉也・李宝峰・高橋司	4. 巻 52
2. 論文標題 アメリカ国立公文書館 (NARA) 所蔵の空中写真標定図 GISを用いたマップ検索システム構築に向けて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 待兼山論叢 < 日本学編 >	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sakuno, Hirokazu	4. 巻 39
2. 論文標題 The Degradation and Regeneration of Rural Areas in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会科研究	6. 最初と最後の頁 11-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 作野広和	4. 巻 65
2. 論文標題 人口減少社会における関係人口の意義と可能性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 経済地理学年報	6. 最初と最後の頁 10-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川秀一	4. 巻 63-6
2. 論文標題 農村空間の商品化と「田園回帰」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 48-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 筒井一伸	4. 巻 64
2. 論文標題 農山村をめぐる課題と政策研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 経済地理学年報	6. 最初と最後の頁 52-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 筒井一伸・嵩 和雄・尾原浩子	4. 巻 63-6
2. 論文標題 田園回帰における継業 「家業」意識への対応として	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 20-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 立見淳哉・筒井一伸	4. 巻 63-6
2. 論文標題 田園回帰と連帯経済の接点をさぐる	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 55-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 磯田弦	4. 巻 63-6
2. 論文標題 田園回帰は反都市化のさきがけか？	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 35-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田国光・渡辺梯二	4. 巻 63-8
2. 論文標題 十勝地域における「大規模農業」の軌跡とこれから	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 32-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中條暁仁	4. 巻 64
2. 論文標題 農山村をめぐる地域論的視座	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 経済地理学年報	6. 最初と最後の頁 60-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中條暁仁	4. 巻 10
2. 論文標題 中山間地域における無住寺院の実態と檀信徒の対応 広島県北部寺院調査の中間報告	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教化学研究	6. 最初と最後の頁 103-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中條暁仁	4. 巻 63-6
2. 論文標題 農山村の高齢社会化と田園回帰の可能性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 27-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小島泰雄、筒井一伸、磯田弦、中川秀一、中條暁仁ほか	4. 巻 12-2
2. 論文標題 シンポジウム報告：田園回帰と地理学理論	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 E-journal GEO	6. 最初と最後の頁 318-321
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4157/ejgeo.12.318	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中條暁仁	4. 巻 63
2. 論文標題 中山間地域における地域資源の活用実践と住民の対応	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 経済地理学年報	6. 最初と最後の頁 171-181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sato, R.	4. 巻 95
2. 論文標題 Sedentarization of nomadic shifting cultivators: The Majangir of lowland Ethiopia	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Senri Ethnological Studies	6. 最初と最後の頁 191-229
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 今里悟之	4. 巻 155
2. 論文標題 平戸島における宗教分布と集落空間構成の地形的条件	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 史淵	6. 最初と最後の頁 103-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田国光	4. 巻 90
2. 論文標題 熊本県芦北町黒岩集落における人工林化にともなう山腹斜面景観の変容 - 焼畑農業衰退前後の就業動向に着目して -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 地理学評論	6. 最初と最後の頁 459-474
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐久間安富・筒井一伸・黍嶋久好	4. 巻 4
2. 論文標題 農山村集落の生活を支える地域外家族のネットワークの状況に関する調査 愛知県北設楽郡豊根村における2002年調査と2015年調査の比較を通じて	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 愛知大学三遠南信地域連携研究センター紀要	6. 最初と最後の頁 25-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田岬・吉田国光	4. 巻 10
2. 論文標題 石川県七尾市一本杉通り商店街における商業活性化策の展開	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 地理空間	6. 最初と最後の頁 85-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24586/jags.10.2_85	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 本田恭子・金 どう哲・生方史数	4. 巻 23-1
2. 論文標題 中山間地域における高齢者の購買行動の現状 津山市阿波地区を事例に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 地域地理研究	6. 最初と最後の頁 10-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ehara Makoto, Hyakumura Kimihiko, Sato Ren'ya, Kurosawa Kiyoshi, Araya Kunio, Sokh Heng, Kohsaka Ryo	4. 巻 149
2. 論文標題 Addressing Maladaptive Coping Strategies of Local Communities to Changes in Ecosystem Service Provisions Using the DPSIR Framework	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Ecological Economics	6. 最初と最後の頁 226 ~ 238
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ecolecon.2018.03.008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 筒井一伸	4. 巻 117
2. 論文標題 「田園回帰」の潮流と地域づくり	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 自治研かごしま	6. 最初と最後の頁 22-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小島泰雄	4. 巻 14
2. 論文標題 延吉農村における朝鮮族の移動性と農地の流動化	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 地域と環境	6. 最初と最後の頁 25-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小島泰雄	4. 巻 2016-1
2. 論文標題 中国の一人っ子政策の転換	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 地理・地図資料	6. 最初と最後の頁 7-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤廉也	4. 巻 50
2. 論文標題 高校地理教科書における焼畑記述 誤解の拡散とその背景	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 待兼山論叢 < 日本学編 >	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Satoshi Imazato	4. 巻 44
2. 論文標題 Spatial Structures of Japanese Hidden Christian Organizations on Hirado Island: A Comparative Study of Three Villages and Ikitsuki Island	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Religious Studies	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中條暁仁	4. 巻 62-2
2. 論文標題 中山間地域における地域資源の活用実践と住民の対応	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 経済地理学年報	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山村亜希	4. 巻 14
2. 論文標題 犬山城下町の空間構造とその形成過程	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 地域と環境	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 筒井一伸	4. 巻 68-3
2. 論文標題 学界展望 村落	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 人文地理	6. 最初と最後の頁 324-327
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計49件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 10件)

1. 発表者名 小島泰雄
2. 発表標題 農村変化と集落再編を形態論から考える
3. 学会等名 日本地理学会2020年春季学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 作野広和
2. 発表標題 地域運営組織の設立過程と地域的意義
3. 学会等名 日本地理学会2020年春季学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 今里悟之
2. 発表標題 地域運営組織と村落地理学
3. 学会等名 日本地理学会2020年春季学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金どう哲
2. 発表標題 地域運営組織は過疎地域再生の切り札になるか
3. 学会等名 日本地理学会2020年春季学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中條暁仁
2. 発表標題 高齢社会化と地域福祉をめぐるコミュニティの再編成
3. 学会等名 日本地理学会2020年春季学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉田国光
2. 発表標題 農業インフラの管理をめぐる様々な担い手と社会ネットワーク
3. 学会等名 日本地理学会2020年春季学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 筒井一伸
2. 発表標題 地域運営組織の可能性と直面する課題
3. 学会等名 日本地理学会2020年春季学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中川秀一
2. 発表標題 田園回帰とコモンス化からみた入会林野の位相
3. 学会等名 第11回 東日本入会山村研究会研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中川秀一
2. 発表標題 再編過程にある林業の地域構造について 林業成長産業化と地域森林管理
3. 学会等名 2019年度経済地理学会関西支部2月例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 NGUYEN Quang and KIM Doo-Chul
2. 発表標題 Land Use and Livelihood Transformations on the Fringe of Hanoi, Vietnam under Urbanization Pressure: A Case Study
3. 学会等名 The 14th Japan-Korea-China Joint Conference on Geography (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 DUONG Thi Thu Ha, and KIM Doo-Chul
2. 発表標題 Agricultural Land Consolidation in Central Region of Vietnam: A Case Study in Binh Dao Commune, Thang Binh District, Quang Nam Province
3. 学会等名 The 14th Japan-Korea-China Joint Conference on Geography (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 作野広和
2. 発表標題 「むらおさめ」の必要性を問う - 人口減少社会における最末端集落への向き合い方 -
3. 学会等名 大日本農会2019年度第1回農業懇話会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 作野広和
2. 発表標題 鳥根県邑南町における「地区別戦略」の成果と課題 山村の持続可能性を追求する
3. 学会等名 2019年度人文地理学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中條暁仁
2. 発表標題 過疎山村における寺院の無住化とその地域的要因
3. 学会等名 2019年度人文地理学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ZHANG Xiaolin、 KOJIMA Yasuo
2. 発表標題 Reorganization of rural settlement under public ownership in China
3. 学会等名 International Workshop for the Reorganization of Rural Settlement System
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小島泰雄
2. 発表標題 基於实地考察思考珠江三角洲農村的变化
3. 学会等名 2018中国地理学大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小島泰雄
2. 発表標題 農民の生活空間の変遷からみた中国の改革開放
3. 学会等名 日本地理学会2018年秋季学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 KIM Doo-Chul
2. 発表標題 Scalar Politics of restructuring depopulated rural communities: A case study of Jinan County, South Korea
3. 学会等名 International Workshop for the Reorganization of Rural Settlement System
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 KIM Doo-Chul
2. 発表標題 Twisted Attitudes toward Environment and Agriculture
3. 学会等名 International Scientific Conference Sustainable Agriculture and Environment (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 KIM Doo-Chul
2. 発表標題 Coping with Depopulation and Demographic Ageing in Rural Japan
3. 学会等名 the 4th Asian Conference on Geography (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ashinie Astin,SATO Ren 'ya
2. 発表標題 Sedentarization, immigration and land grabbing: A case from the Majangir, Southwestern Ethiopia
3. 学会等名 International Workshop for the Reorganization of Rural Settlement System
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤廉也
2. 発表標題 森の樹木に関する知識と個人差 エチオピア南西部・マジャンギルにおける「樹種同定テスト」の試み
3. 学会等名 アフリカ学会第55回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤廉也
2. 発表標題 改善されない高校地理教科書の焼畑に関する誤記述
3. 学会等名 2019年日本地理学会春季学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 IMAZATO Satoshi、TSUTSUI Kazunobu
2. 発表標題 Reorganization of Japanese rural settlements: Research traditions and current issues
3. 学会等名 International Workshop for the Reorganization of Rural Settlement System
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 作野広和
2. 発表標題 地方都市における地域運営組織の設立意義と課題
3. 学会等名 中四国都市学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Frank Rennie、NAKAGAWA Shuichi、ISODA Yuzuru
2. 発表標題 Community land ownership and the reorganisation of rural settlement systems in Lewis and Harris, Scotland
3. 学会等名 International Workshop for the Reorganization of Rural Settlement System
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中川秀一・磯田弦・宮地忠幸
2. 発表標題 スコットランドにおける共有地創出の取り組み ハリス・ルイス島における土地改革の展開
3. 学会等名 2018年度日本地理学会春季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 YOSHIDA Kunimitsu
2. 発表標題 Changes in Mountain Slope Landscape by Expanding Artificial Forests in Kumamoto Prefecture, Japan: Focusing on the Working Styles of Residents
3. 学会等名 International Geographical Regional Conference 2018, Quebec, Canada (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉田国光
2. 発表標題 漁場利用をめぐる主体間関係の分析に向けた方法論的検討
3. 学会等名 日本地理学会2019年春季学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中條暁仁
2. 発表標題 過疎地域における寺檀関係の持続可能性
3. 学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中條暁仁
2. 発表標題 中山間地域における住民参加の福祉活動と「地域共生社会」の可能性
3. 学会等名 019年日本地理学会春季学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 NAKATSUJI Susumu
2. 発表標題 Integrating people, settlements and land into the state: reorganization of rural settlement system in Laos since 1990s
3. 学会等名 International Workshop for the Reorganization of Rural Settlement System
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Susumu Nakatsuji
2. 発表標題 Changes in land use in Laos during the Second Indochina War
3. 学会等名 2018 International Geographical Union Regional Conference
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小島泰雄・筒井一伸
2. 発表標題 シンポジウム「田園回帰と地理学理論」の視園
3. 学会等名 日本地理学会2017年秋季学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小島泰雄
2. 発表標題 深センの農村はいかにして無くなったのか
3. 学会等名 日本地理学会2018年春季学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 立見淳哉・筒井一伸
2. 発表標題 「田園回帰」からも一つの経済へ 連帯経済との接点を探る
3. 学会等名 日本地理学会2017年秋季学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 磯田弦
2. 発表標題 田園回帰は反都市化のさきがけか？
3. 学会等名 日本地理学会2017年秋季学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中川秀一
2. 発表標題 農村空間の商品化と「田園回帰」
3. 学会等名 日本地理学会2017年秋季学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中條暁仁
2. 発表標題 農山村の高齡社会化と田園回帰の可能性
3. 学会等名 日本地理学会2017年秋季学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐藤廉也
2. 発表標題 森の樹木に関する知識の継承と個人差 エチオピア南西部・マジャンギルにおける利用知識調査
3. 学会等名 2017年アフリカ学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐藤廉也
2. 発表標題 ラオス中部・アランノイにおける食生活・食料獲得活動と出生力
3. 学会等名 2017年日本人口学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐藤 廉也
2. 発表標題 小規模社会における知識の獲得プロセスと性・年齢差 「マジヤンの森」における野生植物利用知識調査
3. 学会等名 日本地理学会2017年秋季学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yoshida, K., Shoji, G., Yokoyama, S. and Thompson, E.
2. 発表標題 Labor Allocation in Rural Households: The Case of a Suburban Mountainside Settlement in Japan
3. 学会等名 Association for Asian Conference Annual Conference 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 KQJIMA Yasuo
2. 発表標題 Economic Development and Cultural Change in rural Guangzhou
3. 学会等名 The 33rd International Geographical Congress (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ren 'ya SATO and Tingzuo WANG
2. 発表標題 Deforestation, Protection, Local Use and Governmental Policies on Mangrove in Hainan Island
3. 学会等名 The 33rd International Geographical Congress (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yamamura, Aki
2. 発表標題 The Transforming Processes of Kyoto, the Millennium Capital of Japan
3. 学会等名 The 33rd International Geographical Congress (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 佐藤廉也・蔣宏偉・西本太・横山智
2. 発表標題 ラオス中部・アランノイの食生活と出生力 食事調査データの分析を中心に
3. 学会等名 2017年日本地理学会春季学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中辻享
2. 発表標題 ベトナム戦争期におけるラオス山村の土地利用変化
3. 学会等名 2016年人文地理学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中條暁仁
2. 発表標題 高齢者や女性による地域資源活用の取り組みとその意義 静岡市中山間地域を中心として
3. 学会等名 2016年度経済地理学会奈良地域大会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計19件

1. 著者名 伊藤達也、小田 宏信、加藤 幸治、中條暁仁	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 370
3. 書名 経済地理学への招待	

1. 著者名 Thompson, E., Rigg, J. and Gillen, J eds, Shoji, G., Yoshida, K. and Yokoyama, S	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Amsterdam University Press	5. 総ページ数 353
3. 書名 Asian Smallholders in Comparative Perspective	

1. 著者名 荒木一視・林紀代美編、吉田国光	4. 発行年 2019年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 245
3. 書名 食と農のフィールドワーク入門	

1. 著者名 筒井一伸監修・関司直也著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 筑波書房	5. 総ページ数 59
3. 書名 就村からなりわい就農へ 田園回帰時代の新規就農アプローチ	

1. 著者名 家中茂ほか編著、筒井一伸	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 304
3. 書名 新版地域政策入門 地域創造の時代に	

1. 著者名 内山雅生、小島泰雄ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 御茶の水書房	5. 総ページ数 300
3. 書名 中国農村社会の歴史的展開	

1. 著者名 経済地理学会、作野広和、中川秀一ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 原書房	5. 総ページ数 720
3. 書名 キーワードで読む経済地理学	

1. 著者名 マイケル ウッズ、高柳 長直、中川 秀一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 農林統計出版	5. 総ページ数 364
3. 書名 ルーラル	

1. 著者名 上村 靖司、筒井 一伸、沼野 夏生、小西 信義	4. 発行年 2018年
2. 出版社 コモンズ	5. 総ページ数 224
3. 書名 雪かきで地域が育つ	

1. 著者名 須山聡、宮内久光、助重雄久、平岡昭利、中條暁仁	4. 発行年 2018年
2. 出版社 海青社	5. 総ページ数 208
3. 書名 離島研究VI	

1. 著者名 佐藤廉也・宮澤仁	4. 発行年 2017年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 303
3. 書名 現代人文地理学	

1. 著者名 池谷和信編、佐藤廉也	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 320
3. 書名 狩猟採集民からみた地球環境史	

1. 著者名 島田周平・上田元編、佐藤廉也	4. 発行年 2017年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 176
3. 書名 アフリカ	

1. 著者名 北澤満編、筒井一伸	4. 発行年 2018年
2. 出版社 清文堂出版	5. 総ページ数 290
3. 書名 軍港都市史研究 佐世保編	

1. 著者名 結城正美・黒田智編、吉田国光	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 344
3. 書名 里山という物語 - 環境人文学の対話	

1. 著者名 金田章裕編、山村亜希	4. 発行年 2018年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 422
3. 書名 景観史と歴史地理学	

1. 著者名 池谷和信 (佐藤廉也)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 307
3. 書名 狩猟採集民からみた地球環境史	

1. 著者名 田中良之先生追悼論文集編集委員会編 (佐藤廉也)	4. 発行年 2016年
2. 出版社 中国書店	5. 総ページ数 602
3. 書名 考古学は科学か? (上)	

1. 著者名 中朋美・小笠原拓・田川公太郎・筒井一伸・永松大	4. 発行年 2017年
2. 出版社 筑波書房	5. 総ページ数 161
3. 書名 インターローカル つながる地域と海外	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>集落再編の国際比較と生活空間論による再考 ホームページ http://www.kojima.geo.h.kyoto-u.ac.jp/shuraku/</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	金 どう哲 (Kim Doochul) (10281974)	岡山大学・環境生命科学研究科・教授 (15301)	
研究分担者	佐藤 廉也 (Sato Renya) (20293938)	大阪大学・文学研究科・教授 (14401)	
研究分担者	今里 悟之 (Imazato Satoshi) (90324730)	九州大学・人文科学研究院・准教授 (17102)	
研究分担者	作野 広和 (Sakuno Hirokazu) (50284146)	島根大学・学術研究院教育学系・教授 (15201)	
研究分担者	中川 秀一 (Nakagawa Shuichi) (00298415)	明治大学・商学部・専任教授 (32682)	
研究分担者	筒井 一伸 (Tsutsui kazunobu) (50379616)	鳥取大学・地域学部・教授 (15101)	
研究分担者	磯田 弦 (Isoda Yuzuru) (70368009)	東北大学・理学研究科・准教授 (11301)	
研究分担者	中條 暁仁 (Nakajo akihito) (40432190)	静岡大学・教育学部・准教授 (13801)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中辻 享 (Nakatsuji Susumu) (60431649)	甲南大学・文学部・教授 (34506)	
研究分担者	吉田 国光 (Yoshida Kunimitsu) (70599703)	金沢大学・学校教育系・准教授 (13301)	
研究分担者	小方 登 (Ogata Noboru) (30160740)	京都大学・人間・環境学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	山村 亜希 (Yamamura Aki) (50335212)	京都大学・人間・環境学研究科・教授 (14301)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	野間 晴雄 (Noma Haruo) (00131607)	関西大学・文学部・教授 (34416)	
連携研究者	高野 和良 (Takano Kazuyoshi) (20275431)	九州大学・人間環境学研究院・教授 (17102)	
連携研究者	星野 敏 (Hoshino Satoshi) (60192738)	京都大学・地球環境学堂・教授 (14301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 International Workshop for the Reorganization of Rural Settlement System	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Land, Housing and Farming on the Peri-Urban Fringe: Recent developments in the UK and Australia	開催年 2016年～2016年
国際研究集会 地理学の都市農村計画における応用 中国河南省滑県の都市農村総合計画を例として	開催年 2017年～2017年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
中国	Nanjing Normal University			
エチオピア	Addis Ababa University			
ラオス	National University of Laos			
英国	University of the Highlands and Islands			